



# 三島企業の考える 三島カルチャー

# 6

## 会社の魅力を高める 継続的な社会貢献



プロフィール

三島市出身。日本大学法学部卒業後、1968年三島信用金庫へ入庫。以来、静浦支店長、原町支店長、沼津支店長等を経て、2000年に常勤理事就任。その後、常務理事を経て、2007年理事長に就任。2013年より三島商工会議所会頭を兼務。趣味はボランティア活動、ケーキ作り。

## 理事長 稲田 精治 氏



### 本物の芸術作品で 三島の文化力を高める

1ヶ月間1人の作家の作品を展示して、全国からお客さんが見に来られます。芸術家というのは、すごく人脈が広いんですね。我々の付き合いの仕方とは違うので、それは私にとってもありがたいなと思います。最終的には、三島の文化力を高めることができるのではないかと思います。

新しい本店は、75年前の意匠に、現代的なガラスを使ったデザインを加えているので、大変趣のある建物になったのではないかなと思います。本店の前は、三島の散策ルートになっています。源兵衛川を歩き、三嶋大社を訪れるときに寄ってもらいたいので、ギャラリーの休みを金庫が休みの土日ではなく木曜日に行っています。守衛を置かないといけないし、費用がかかりますが、重要な作品を展示していることで、維持管理は徹底しなければいけません。面積も普通の画廊よりも広く、照明も最新のLEDで、作家さんには喜んでいただいています。

また、下田、熱海、長泉にある支店にストリートギャラリーという展示スペースを設けています。金融機関ですから、土日は休みですが、そういうときにも地域に自然に溶け込んでいけるようにしたいなど考えています。熱海支店前の人通りが多く、観光客の方々にも喜ばれています。



さんしんギャラリー 善

### 社会貢献事業が 安定経営につながる

新しい建物を建てるときは、最初からギャラリーを作ろうと計画しました。経営者がそれを「無駄」と考えるのか「価値」として考えるかで、大きく違います。一度始めると経営が悪化してもやらなければなりません。我々にとってギャラリーを開設することは、経営を安定化させなければならぬという使命になります。

当金庫には、知的障がい・精神障がい・発達障がいの方が働く特例子会社「さんしんハートフル株式会社」があります。こちらもギャラリーと同様、経営が悪いからと言ってやめることはできません。我々としては覚悟が必要ですが、継続して社会貢献に取り組んでいるという姿勢を示すことが、三島信用金庫のブランドイメージになると考えています。

1911年に三島で創業し、以来、貫して共存同栄を理念として堅実な経営を続けている三島信用金庫は、静岡県東部・伊豆一円に50の支店を持ち、地域経済を支えている。2011年には創立100周年事業として、昭和初期に建てられた本店の建築意匠を踏襲して新築建替し、最上階にギャラリーを新設して話題になった。三嶋手の茶碗で手ずからお茶を入れてくださった稲田理事長に話を伺った。

1911年には三島で創業し、以来、貫して共存同栄を理念として堅実な経営を続けている三島信用金庫は、静岡県東部・伊豆一円に50の支店を持ち、地域経済を支えている。2011年には創立100周年事業として、昭和初期に建てられた本店の建築意匠を踏襲して新築建替し、最上階にギャラリーを新設して話題になった。三嶋手の茶碗で手ずからお茶を入れてくださった稲田理事長に話を伺った。

### 地元の文化や歴史を 業務に活かす

三島は「古今伝授の街」でもあります。郡上八幡から飯尾宗祇が伊豆に来たということで、郡上の八幡信用金庫ともお付き合い

三島は「古今伝授の街」でもあります。郡上八幡から飯尾宗祇が伊豆に来たということで、郡上の八幡信用金庫ともお付き合い

障がいのある方への雇用機会の提供にしても、ギャラリーにしても、直接的に利益にはならなくても、障がいのある方への自立支援への取り組みを示すことや、職員が芸術に関心を持つことで、資質の向上につなげていくことを、企業経営に反映できれば一番いいと考えています。

障がいのある方への雇用機会の提供にしても、ギャラリーにしても、直接的に利益にはならなくても、障がいのある方への自立支援への取り組みを示すことや、職員が芸術に関心を持つことで、資質の向上につなげていくことを、企業経営に反映できれば一番いいと考えています。

創業者の大村善平翁という人は104年前、24歳の若さで三島信用金庫を作りました。当時の銀行というのは、地元でも大きな企業にしか融資しなかったんです。あとは、町の金融業者や講を組むということしか選択肢がなかったのを、脱却しようとしたんですね。お金に少しでも余裕がある人からお金をお預りして、お金が必要な人にお貸しする事業をやろうとしたのです。ひとり、自宅で、365日24時間店を開きますと言った、少しずつ信用を獲得していききました。

その原点は、恵まれない人を金融という部分で応援しようというものです。地域を良くしたいという理念は、今の地方創生と全く同じです。それが現在まで金庫の精神として流れています。

### 「三島のこころ」を 自然な美しさを活かす

「さんしんギャラリー善」は、この大村善平の「善」をとって名付けました。



### 三島信用金庫

静岡県三島市芝本町12番3号  
(本店営業部)

<https://www.mishima-shinkin.co.jp/>

三島企業の考える三島カルチャーは、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業の方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。

次回「伊豆箱根バス 代表取締役社長 杉山 武司氏」